

教育目標	【School Mission (建学の精神)】 実社会に貢献してゆく人間の育成	
今年度の重点目標	1. 一人ひとりの生徒への誠実な対応 2. 教員の指導力向上 3. 次期学習指導要領への対応	4. 国際教育の推進 5. 校務の合理化と質の向上

			年度当初			中間評価	
評価項目	分掌	具体項目	現状	目標 (年度末目指す姿)	目的達成のための方策	評価	経過・達成状況・改善方策
1 一人ひとりの生徒への誠実な対応	総務	環境整備の徹底と防災対策の充実	・日々の清掃は行き届いているものの、歴史ある校舎のため、修繕が必要と思われる箇所が見受けられる。 ・定期的に防災訓練を行っている。	・校舎の修繕 ・自己の生命を守るとともに生徒同士が助け合える行動をとれる防災訓練の実施	・校内連携を図り、破損箇所すみやかな修繕に努める。 ・火災、地震の避難訓練を実施し、災害時への対応を確認する。		
	総務	学校と保護者との協力関係の構築	保護者に定期的な学校行事への参加協力を頂いている。	行事への参加を通じ、学校生活を過ごす生徒の姿を見てもらい協力関係の強化につなげる。	三役会、総務委員会等を通じて保護者へ学校行事の参加協力を呼び掛ける。		
	生徒指導部	基本的生活習慣・公共心の育成	マナーやモラルが遵守できていない生徒に対して規範意識の育成が必要である。	規範意識の向上 ルール・マナーを遵守する	全教職員で共通理解を図り、少しでも気になることは声をかけ粘り強く指導を行う。安全意識についても高揚と啓発に努める。		
	生徒指導部	様々な生活指導上の問題の防止	SNSに起因する問題行動が増加している。	情報モラル・リテラシーを育み、自らの判断でトラブルを防止する。	SNSトラブルの未然防止に向けたデジタルシティズンシップ教育の推進。		
	進路指導部	1人ひとりの可能性を最大限伸ばし、希望の進路を実現する	・受験の形式が複雑なため、生徒一人一人とコミュニケーションをとり、指導にあたる必要がある。 ・1, 2年次での進路意識を高め、受験や就職試験で必要となる力を付けていかなければならない。	・担任、出願担当者、部長の間での連携を密にとり、生徒にとって最適な受験方法を提案し、サポートする。 ・生徒が社会人として自立し、持続可能な職業生活を送ることができるよう指導する。	・BLEND等を用いて、教員間や保護者と教員間の情報共有をスムーズに行う。 ・企業研究や求人票の見方、履歴書指導などきめ細かく指導する。		
	生徒相談支援	各部署と連携をとり、生徒の相談と支援の実施	支援が必要な生徒の増加、多様化に対し、学年部の協力を得ながら適切な教育相談・支援に務めている。	学校全体で理解を深め、適切な支援を行う。	切れ目のない支援のための引継ぎを行う。 適切なアセスメントを行う。 学校内外の連携を行う。		
	生徒会	学校行事等を通じて生徒の自主自律の精神を育てる	学校行事やイベントへの参加を通じて、生徒ひとりひとりが主体的に考え行動できる生徒会を目指す。また、生徒会だけでなく生徒全体が主体となる行事を目指す。	・学校行事の充実 ・生徒会活動の充実 ・部活動との連携	学校行事の開催に向けて早めに計画を立て、より良いイベントが実施できるよう準備する。 学校生活をより充実したものにするために、定期的に部会を開き、議論する。		
探究推進	探究活動のより一層の推進を図る	多くの生徒の選択肢を増やし、自ら望んだ進路を選択するために、どう総合的な探究の時間を行っていくことが必要なのかを考えてきた。また、教育目標の実現に当たっては総合的な探究の時間が重要な役割を果たすことを全教職員で理解することが欠かせないことを理解してきた。 年間の全体計画をはじめとする各種計画の作成、校外の支援者との連携のためにコーディネート役の機能を果たした。 各学年部で各グループの探究テーマについて情報収集・資料の作成・成果物の発表を行った。	「主体的・対話的で深い学び」 ・探究活動で、仲間と協力しながら1つの成果物を完成させ発表することで、学ぶことやの楽しさや達成感を得ることを目指す。 ・地域社会に貢献できるための資質・能力を育成することを旨とする。	①課題の設定 ②情報の収集 ③整理・分析 ④まとめ・表現 ①～④に従って他者と協働して主体的に取り組む学習活動にする。			
2 教員の指導力向上	教務	授業評価の実施 (年2回)	年2回の生徒による授業評価アンケートを継続的に実施している。結果をもとに各教員が授業の振り返りを行うとともに、教科内で共有し、指導上の課題把握と改善に活用している。	授業評価結果を活用し、個々の授業改善にとどまらず、教科としての課題分析と改善策の共有を進め、指導力向上につなげている。	全教員を対象に年2回の授業評価アンケートを実施し、その結果を個人および教科内で分析・共有する。また、分析結果を踏まえ、教科内での情報共有を通して授業改善の取り組みを継続的に推進する。		
	進路指導部	体制を強化し進路実績を高める	・進学希望者が増加しているため、教員一人あたりが受け持つ生徒数が増えている。 ・他部署との連携を深めながら体制強化の方策を見出していく必要がある。	・多くの教員が志望理由書作成指導や小論文指導が出来る体制を構築する。 ・教員一人一人が専門性に優れた高度な進路指導を出るようになる。	・教員対象の小論文研修会の実施など教員が学ぶ機会を設けたり、生徒対象の進路講演会等への参加を積極的に勧める。 ・進路指導部会を積極的に開き、進路指導の方法について互いに研鑽する機会を設ける。		
	人権教育推進部	生徒の人権意識を高め、思いやり・倫理観の育成	人権感覚が高く、自他の人権・権利を大切にできる生徒が多い一方、クラス・部活動で不適切な発言をする生徒もいる。	言葉・表現を大切にお互いの尊厳を認め合い、不適切な発言を無くし、ネットの正しい使い方にもつなげていく。	毎日の学校生活は勿論、人権ホームルーム、人権講演会、言葉遣いアンケートを通して人権感覚を高める。		
	広報	募集活動につながる広報活動のさらなる強化	広報イベントを拡充し広く参加者を集めている。Web・SNS・印刷物等での情報発信を適切に行っている。広報活動を通じて学校ブランディングを行っている。	開かれた学校づくりの推進と学校ブランディングを行う。	広報イベントの充実、Web・SNS・印刷物・制作物による情報発信、学校説明プレゼンテーションの改善を図る。		
3 次期学習指導要領への対応	教務	新しい学力観に立脚した教育の推進	生徒の思考力・判断力・表現力や問題解決能力の育成を目指し、学習内容や達成目標、評価方法について教員間で共有しながら学習指導を行っている。また、教科内外での情報交換を通して指導の工夫・改善を進めている。	新しい学力観に基づく指導について教員間での共有と実践を進め、多面的で教科横断的な視点を取り入れた学習を実施している。	教員相互の授業見学や情報交換の機会を確保し、指導方法や教材の工夫について共有する。また、教科内外での連携を通して、教科横断的な視点を取り入れた授業づくりを継続的に推進する。		
4 国際教育の推進	国際教育委員会	グローバル人材の育成	現在、本校には海外からの留学生が在籍しており、他の生徒たちとの異文化交流が活発に行われている。昨年度には、中国やニュージーランドからの留学生を受け入れ、またセブ島やアメリカへの短期留学、アメリカの学校との交換留学を実施した。	生徒一人ひとりが豊かな語学力と高いコミュニケーション能力を身につけるとともに、異文化への理解を深める体験を重ねることにより、国際社会において主体的かつ協動的に行動できる人材の育成を目指す。	海外からの留学生の受け入れを推進し、生徒が日常的に異文化に触れられる環境を整備する。 留学生との共同学習や学校行事を通じて、互いの文化を理解し合う異文化交流の機会を充実させる。 海外の学校との連携を強化し、生徒の国際的な視野を育む。		
5 校務の合理化と質の向上	教務	学校行事の円滑な運営	安全面に配慮しながら学校行事を運営しており、状況に応じた対応を行いつつ、円滑な実施に努めている。	安全面に十分配慮しながら、計画的かつ効率的に学校行事を運営し、円滑な実施が安定して行われている。	学校行事について早期に計画を立てるとともに、関係教員間での情報共有を図り、見直しをもった運営を行う。		
	総務	円滑で正確な入学試験事務の実施	入試説明会を通じ、中学校にWeb出願による手続きが定着してきた。	より合理的な入学試験事務作業の方法を模索する。	スケジュールを把握し、担当者間の連携に努める。		